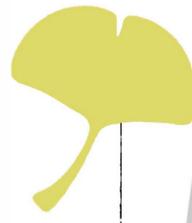


ウキウキわくわく将棋の世界

いつつ

itsutsu news letter



特集

2-3

作者が語る
はじめての
将棋手引帖3巻

だより

4-5

子どもに
将棋を教える
ということ

6

将棋初心者
のための
学習法

発行日 ■ 2017年10月1日 ■ 消費税は発行日に準じます



将棋って、楽しい。



発行・発売 ■ 株式会社いつつ 住所 ■ 〒650-0012 神戸市中央区北長狭通4-4-18富士信ビル5F F-1号 TEL ■ 078-599-5081

WEB ■ <http://www.i-tsu-tsu.co.jp> お問い合わせ ■ hello@kids.i-tsu-tsu.co.jp

作者が語る

「はじめての将棋手引帖3巻」

将棋にはじめて触れる子どもたちの「わからない」を追及した「はじめての将棋手引帖シリーズ」第3弾がついに発売になりました。今回は、手引帖3巻の発売を記念し、同シリーズの作者である女流棋士の中倉彰子と、3巻の途中より制作に加わった元奨励会三段の荒木隆が、3巻の見どころおよびここでしか聞けない制作裏話を語ります。

今回のテーマは 鬼門の定跡

ー8月7日、ついに「はじめての将棋手引帖3巻」が発売になりましたね。今回はどのようなことについて学びますか？

彰子 1巻では駒の動かし方や基本的なルール、2巻では指すための基本的なテクニックそして今回の3巻では基本的な戦法について学習します。

ー基本的な戦法というと？

彰子 例えば、居飛車戦法や振り飛車戦法について、序盤の理想的な駒組、囲い(自玉を守るためのお城のようなもの)など、いわゆる本将棋の定跡についてです。

ー一定跡と聞くとなんだか難しそうに感じます。

彰子 確かに3巻は、2巻と比較して、学習内容の難易度が格段に上がったといえます。複雑な手順をいくつも覚える必要があり、実際、ここで嫌になってしまうお子さんも少なくありません。

ただ、2巻までの内容は主に本将棋を指すための準備段階だったのに対して、3巻以降は「考えながら」指すということを重点的にやっていくので、内容が難しくなる一方、ここからいよいよ将棋らしく、そしておもしろくなるといえます(^^)

ーなるほど。つまりはじめての将棋手引帖1・2巻をしてきたお子さんたちにとって、3巻こそが、もっと将棋を好きになるか、もしくは嫌になるかのターニングポイントというわけですね。

彰子 プレッシャーをかけますね(笑)。でもその通りです。定跡の教え方というのは、指導者にしても「どのように教えるのがいいのか」と工夫を凝らすポイントです。その分、教える人の個性が出やすいところと言えます。



はじめての将棋手引帖 1~3巻

丸暗記させない

ーはじめての将棋手引帖シリーズは、はじめて将棋に触れる子どもたちでも、無理なく楽しく学ぶことができることをコンセプトにしていますが、3巻の学習内容でも、それは踏襲されていますか。

彰子 もちろん!と即答したいところですが、正直、今回はかなり苦戦しました。理由は先ほど述べた通り。手引帖シリーズをリリースするときは必ずスタッフや子どもたちにテストを行うのですが、初稿のテストを実施し、フィードバックをしたところ、「わからない」「覚えられない」の嵐でした。

ーどんなところが「わからない」と言われましたか？

彰子 多かったのは、「複雑な手順を覚えられない」「解説や問題文の想定とは違う手で相手が指して来た時はどう対処すればいいか」などですね。

ーこれらの課題は、どのように克服しましたか？

彰子 「複雑な手順を覚えられない」ということについては、できるだけ丸暗記させない工夫をしました。というのも、例えば、囲いの作り方を手順だけで覚えようとすると、▲2六歩□8四歩▲2五歩・・・と符号が並んでしまい、確かにこれでは、読むのも覚えるのも相当しんどいですよね。そこで手引帖では、手順ではなく、「なぜその1手なのか」、指し手1つ1つの狙いと目的について明記しました。そうすることで、正確に手順を覚えていなくても、目的から逆算して手順を導き出すことができます。

ー確かに、丸暗記しようと思うと、試験の時みたいに、ノートに何度も書いたり、単語帳ならぬ手順帳を持ち歩かなきゃいけなくなって、将棋が楽しいというより、大変って感じですね(笑)。



実戦を意識した問題

ーでは、後者の課題はどのように対処しましたか？

彰子 その点については、実戦を意識した問題で対応しました。実は今回の3巻から、テキストの制作者として、元奨励会三段の荒木くんが仲間に加わりました。奨励会とは、プロ棋士の養成機関みたいなところで、荒木くんは私以上に厳しい環境の中でたくさんの実戦を経験してきたため、問題作成における彼のアドバイスはとても参考になりました。ちなみに、今回の学習の 카테고リーに組み込んだ「理想的な駒組み」というのも彼のアイデアです。



一人ではない テキスト作り

ーそうだったんですね。それでは、荒木さん、今回ははじめて手引帖の制作に関わってみてどうでしたか？

荒木 私自身、幼い頃からずっと将棋を指してきたわけですが、テキストを作成するというのは、初めての体験でした。そこで私が強く感じたのは、将棋は一人で指すけれど、将棋のテキストは一人で作るものではないということです。実は、今回私がテキスト作成時にすごく不安に思ったのが、私自身と、実際に手引帖を使うであろう子どもたちとの感覚のズレです。

例えば、テストの時に指摘されたのですが、私が一般的な日常用語と思っていたことが、実は将棋用語だったり、ここは当然こうだと考えている意図が全く伝わっていないこともありました。よく考えると、私と彰子さん、どっぷり将棋の世界に身を置いていた者同士の間でも、ちょっとした解釈の違いがあります。なので、テストユーザーさんたちとの間にこうした感覚のズレが生じるのは当然なんです。もしここで「こんな将棋用語は知って当たり前」「この解説の意図がわからないならどうしようもない」とすると、初心者でも無理なく楽しく学べるというコンセプトから外れ、テキストは完全に一人よがりになってしまいます。**彰子** 私は、荒木くんという仲間が加わってくれたことで、この一人よがり部分が解消できたと感じています。私の場合、伝えたい事が多すぎて、しかもそれら全部を盛り込み、結果上手くまとまらず、何が言いたいのかわからない事が多いのですが、今回相談相手ができ、冷静な意見をもらえた事で伝えたい事に優先順位をつける事ができました。



荒木 周りのスタッフのサポートもとても助かりました。というのも、彰子さんの拠点が東京にあるため、いつでも面と向かって話ができるわけではありません。先に述べたズレを調整する上でも、テストやそのフィードバックを快く引き受けてくれる人がいるのは、とても心強かったです。私や彰子さんは手引帖シリーズの将棋の部分を担当していますが、手引帖の完成には、たくさんの方が関わっています。

株式会社いっつ代表
女流棋士
中倉 彰子



女流棋士。女流アマ名人戦連覇後、1994年高校3年生で女流棋士としてプロデビュー。NHK杯将棋トーナメントなどテレビ番組の司会や聞き手、イベント司会などでも活躍。私生活では3児の母親でもあり、育児と仕事の両立に奮起。2007年公益社団法人日本女子プロ将棋協会設立に参画。近年は将棋と知育・育児を結びつけるような活動を広く展開し、2015年10月株式会社いっつを設立、代表取締役就任。女流二段。法政大学人間環境学部卒。

ーそれでテキストは一人で作るものではないと言っていたのですね。さて、今こうして完成した「はじめての手引帖3巻」が目前にありますが、どのような気持ちですか？

荒木 私は途中参加ということもあり、今のところ実感があまり湧かないというのが正直な気持ちです。ただ、これから、私が受け持つ「いっつ将棋教室神戸元町校」でこのテキストを使用することになります。テキストを使った子どもたちの反応を見ることは、緊張するようで楽しみでもあります。「すごく分かりやすい」とか「将棋が楽しくなった」という反応が子どもたちから返ってくると「手引帖を作ってよかった」と心から実感できると思います。

彰子 私は、3巻の構成を組む段階からとても悩んでいたの、こうして完成品ができたこと自体とても感慨深いですよ(笑)。ちなみに、10月に「いっつ将棋教室東京府中校」のオープンを予定しているので手引帖3巻を実際に解く子どもたちの反応を府中で見ることができると楽しみにしています。ただ、手引帖は、初心者の子どもたちが無理なく楽しく将棋を学べることを想定したものです。藤井四段の大活躍に沸く昨今、将棋教室に通う子どもたちが増えたとはいえ、その一方で「将棋教室に通いたくない」という声をよく聞くのも事実です。昨今では、対面での将棋ではなく、アプリなどで将棋を楽しむ子どもたちがたくさんいます。将棋手引帖はそうした、まわりに将棋を教える人がいないという環境の中でも、子どもたちが無理なく楽しく将棋を上達させる上で役立つ1冊になればいいなあと思います。



元奨励会三段
荒木 隆



6歳で将棋を始める。元奨励会員(将棋のプロになるための養成機関)。三段まで進み、平成28年9月に退会。初級者に目線を合わせた優しい語り口とポイントをおさえたい指導に定評がある。「はじめての将棋手引帖」の制作にも携わり、初心者のつまづきポイントを徹底して研究。親子向け将棋イベントでは、将棋のお兄さんとして子ども達に大人気。



Interview

女流棋士 中倉彰子が語る!!

子どもに将棋を教えるということ

私は、6歳のときに父から将棋を教わりました。そこからいろんな方に指導してもらいながら、対局を重ねて女流棋士になりました。現役を退いた今、専ら子どもたちに将棋を普及する活動に邁進しているのですが、実は、これまで子どもへの指導法について専門的に学んだことはありません。ですので、自信をもって「これが子どもたちへの将棋指導方法です!」と言えないのですが、ただ、近所のお母様方から「子どもに将棋を教えてくださいませんか?」と言われたのがきっかけではじめて子どもへの指導も10年経ちます。そこから得た経験で、少しでもお役にたつものがあれば嬉しく思います。

まずは「将棋が好き!」

もともと将棋が大好きで将棋教室に来る子どもは、このハードルはどうにクリアしているので、問題はありますが、先に親が将棋に興味を持って子どもを連れてくる場合、また5歳位の小さいお子さんの場合に、とくに重要になってくるのが「将棋が好き!」になれるかどうかということです。子どもは本当に素直ですからねえ。つまらないと分かりやすく「つまらない」という顔を示します(笑)。

先日5歳の女の子に将棋を教えたときのこと。絵本をつかって駒の説明をしました。『しょうぎのくにのだいぼうけん(講談社)』は、私が物語を作った絵本です。それぞれの駒が、個性豊かなキャラクターになって冒険を繰り広げるのですが、この絵本というツールは、特に女の子たちに有効です。

同物語では、まず王様が泣いているところから始まります。王様が出てきたら、「王」の動きを説明。盤の上に駒をおいて、実際に動けるところ(利いているところ)におはじきを置いてもらいます。このように、ページをめくるたびに、少々オーバーに読み聞かせをしたり、手を使う作業をいれるようにすることで、絵本が読み終わる頃には、8種類ある将棋の駒の特徴を楽しく学習することができます。



しょうぎのくにのだいぼうけん



山くずし

また、私はよく子どもたちと「山くずし」をするのですが、その時も「取った駒を読んでみて」「ふ!」という感じで、取った駒を確認したり、駒の価値の話などもしていきます。駒に書かれた漢字や動かし方を単純に反復練習させるだけでは、子どもたちの「将棋が好き!」にはつながりません。絵本やゲームに組み込むことで、遊びを通じて、駒の漢字を完璧に読めるようになり、また価値を理解することにつながります。

喜びをつくる

指導者と初心者のお子さんが対局をするときは、「駒落ち」をすることになります。何をどう指せばいいかわからない子には、アドバイスしながら進めます。ただ、指し手を教えるだけだと、子どもも単なる手の運動になってしまい頭を使いません。そこで、一局を指す時に目標を与えます。例えば「今日は、飛車を成ることが目標だよ」「銀を5段目まで行って大駒と一緒に攻めることが目標だよ」といった具合です。将棋は一局が長いので、「玉をつかまえる」という目標に到達するまでに悩んでしまうのです。

目標を達成できたら、次はヒントを出しながら、玉をつかまえてもらいます。一局指すことを体験しながら「勝つ」ことを味わってもらいます。将棋を覚えてばかりの子には、まず「勝つ」体験が必要です。私もいろいろな場所でお子さんに指導対局をする場面がありますが、初心者の子には、ヒントを出しながら「勝ってもらう」ことを意識しています。「子どもになめられてしまうので勝ちます」という指導者の方もいます。確かにそういう意味もあるかもしれませんが、中級くらいになり、負けても将棋が嫌いにならないレベルの子には、私もプロの強さを実感してもらえるように勝つこともあります。ただやはり覚えてたの子には、「勝つ」楽しさ、「勝つ」嬉しさを先に教えてあげたほうが、その後続くように思います。



強さより大事なこと

将棋が強くなると、天狗になってしまう子もいます(それはそれで可愛いのですが)。ただ「将棋が強い=エライ」ではないということは伝えていきます。強い子が1手詰を解いている子に「こんな簡単じゃん」なんて言っているのを見ると厳しめに注意をしています。弱い子をパカにしたりする行為は許されません。

勝っている子に「また勝ってすごいねー」と褒めてあげることは容易ですが、負けている子にモチベーションをあげるような声かけをしてあげる、頑張っているところを見つけてあげる、というのも指導者の技量が試されるポイントです。なかなか勝てない子がやっと手にした白星の瞬間とか、対局中背筋を伸ばして対局姿勢がいいとか、「負けました」と大きな声でちゃんと言えたというところにも、気が付いて褒めてあげられるように意識しています。



子どもが理解できないのは教え方のせい

飲み込みの早い子、遅い子、どうしても、将棋の上達には個人差が出ます。全く同じ説明で、わかってくれる子とわかってくれない子がいるので、理解できる、できないは、教え方が悪いのではなく教わる側の問題だと考える人もいるかもしれませんが、それは間違いです。

はじめての将棋手引帖を制作する上でも、この壁にぶつかりました。「なんでと疑問に思わずに、こういうものだから覚えてほしい」と思ってしまったことも何度もありましたが(苦笑)、それでは、「誰でもスモールステップで将棋を身につけることができる手引帖」にはなりません。

「わからないのは、教える側の責任」と腹をくくるとかえて楽になりました。まずどこが理解できていないんだろうかと探っていると、こちらが思いもしないことで悩んでいることがわかりました。また私が自然に説明しているつもりが「将棋用語」のオンパレードでわかりにくくさせてしまっていることも…。

指導者の方は、わりとすぐに「有段者」になってしまった方も少なくないと思います。「当たり前」だと思ってすつとばして理解してしまった箇所に、初心者が悩んで理解できない部分が潜んでいることもあります。

どうしても理解してもらえないことがらがあるときは、一度自分の説明が将棋の専門用語なのか日常でも使う言葉なのかどうか振り返ってみると良いかもしれませんね。

我が家では、夫も将棋の棋士で、日常生活でも将棋用語を使ってしまい、もはやどこからか将棋用語でどこからか一般的な言葉なのか境界線がさらに曖昧ではありますが…(笑)。

女流棋士。女流アマ名人戦連覇後、1994年高校3年生で女流棋士としてプロデビュー。NHK杯将棋トーナメントなどテレビ番組の司会や聞き手、イベント司会などでも活躍。私生活では3児の母親でもあり、育児と仕事の両立に奮起。2007年公益社団法人日本女子プロ将棋協会設立に参画。近年は将棋と知育・育児を結びつけるような活動を広く展開し、2015年10月株式会社いつつを設立、代表取締役就任。女流二段。法政大学人間環境学部卒。

株式会社いつつ代表
女流棋士
中倉 彰子



ぐんぐん強くなれる!

第1回

将棋初心者 のための学習法



解説者
元奨励会三段・黒木隆

将棋のルールさえ知っていれば、あとは指しているうちに自然に将棋が強くなるかという、そうではありません。対局で勝てるようになるためには、勝つためのテクニックを身につけてはなりません。しかし、逆に言うと、テクニックさえ身につけていれば、初心者でも簡単に強くなることができます。そこで今回は、ルールを覚えただけの将棋初心者が、次のステップへ行くための学習法についていくつか紹介したいと思います。

1 形から入ることが大切

将棋初心者の対局でよくあることの1つに、同じ駒ばかり動かしてしまうということが挙げられます。特に多いのが、飛車、角、歩など動かし方が簡単な駒ばかり動かすパターンです。将棋は、8種類全ての駒を協力させて相手の王様を捕まえるゲーム。これでは、いつまでたっても相手玉を詰ますことができず、対局に勝つことができません。なぜこのような問題に直面するのでしょうか？ それは、将棋初心者は「何をすれば良いのか分かっていない」からです。しかし、「何をすれば良いのか分かっていないから上手く指せない」の裏を返せば、何をすれば良いのか、目的が明確にさえなれば上手く指せるということになります。本将棋において、最初の指標になるのが「良い形を作る」であり、このことを将棋用語で「駒組み」といいます。

2

駒組の理想型 ＝ 戦法+囲い+攻めの形

さて、ここで皆さん1つ疑問に思うことがあると思います。「良い形ってなあに?」。将棋における良い形(=駒組みの理想型)とは、「戦法+囲い+攻めの形」を指します。ちなみに、戦法とは、効率良く戦うための方法であり、将棋の場合だと「居飛車戦法」と「振り飛車戦法」の二つに大別されます。また、囲いとは玉を守るお城のようなもので、1局の中で守りの要のような役割を果たします。さらに、当たり前ですが、相手の玉を捕まえるためには、敵陣を攻めなくてはなりませんよね。つまり、「戦法」「囲い」「攻めの形」のこれら全てを行い、戦いの準備を整えることで「駒組みの理想型」が完成します。そして、この理想形のパターンをいくつか覚えていけば、その理想形を目指して駒を動かしていけばいいわけで、「何をすれば良いのか分からない」問題は解決されますよね。

理想型を作ったのは良いけれど、細かい意味や理屈を知らなくて大丈夫なのかという疑問を持たれる方もいるかもしれません。しかし、心配は無用です。子どもに自転車の乗り方を教えるときに、「上手くバランスを保って走り続けられれば転ばないよ」と理屈を教えても、あまり意味がないですよね。将棋でも、理想型を作ることの重要性を事細かく解き明かすよりも、とりあえず型を作ってもらい、実戦の中で良さを実感させ、本人自らの力でその価値を理解してもらうほうが、棋力向上に繋がります。

3

詰将棋で詰みの パターンを認識

棋力向上に欠かせない勉強方法の一つに、詰将棋があります。まずは1手詰からチャレンジすることをオススメします。なぜなら、1手詰が解けないと、相手の王を詰ますことができず、実戦でも勝つことができません。きっと、指導者にとっては1手詰なんてお茶の子さいさいだと思いますが、初心者にとっては低いハードルではありません。特に詰将棋は得手不得手が分かれば、答えは言うまでもないですよ。もちろん、しっかり解けることが理想ではありますが、それよりも詰みパターンを認識するほうが重要なので、詰将棋は積極的に取り組んでほしいと思います。

確かに答えを見てしまうと詰将棋を解いたことにはなりませんが、それでも詰みの形や手順を覚えることができます。詰将棋の目的の一つに、「詰みパターンの習得」が挙げられます。詰みパターンをたくさん知っている人と、全く知らない人、どちらが実戦で先に王を詰ますことができるかと問われれば、答えは言うまでもないですよ。もちろん、しっかり解けることが理想ではありますが、それよりも詰みパターンを認識するほうが重要なので、詰将棋は積極的に取り組んでほしいと思います。



(01)

いつつ式将棋入門セット

¥5,980

将棋を始めたい!そんなあなたにおすすめの将棋入門セット。スタートに必要なものが全て揃っています。これさえあれば、今すぐにでも将棋を始められます。「はじめての将棋手引帖1巻」「いつつ特製布盤+駒袋」「駒の動かし方下敷き」「将棋駒(天童産、国産木使用)」付き。

01

ギフトにもおすすめ!



[セット] はじめたい

スタートにおすすめ

[書籍] 学びたい

勉強派のあなたに

02



(02)

はじめての将棋手引帖

各¥1,620

将棋がまったく初めての方でも始められる、解説と練習が一緒になった楽しい教材。駒の動かし方から基本的な戦法まで、1日15分程度のスモールステップで無理なく身につけられます。

- 第1巻「将棋が指せるようになる」
- 第2巻「指すための基本的なテクニックを身につける」
- 第3巻「基本的な戦法(定跡)を身につける」

03



(03)

将棋柄のクリアフォルダー

¥280

カラフルでかわいらしい動物たちと、将棋駒が一緒になったクリアフォルダー。将棋が大好き、これから将棋を始めたいというお子さんにぴったりの一品。

04



(04)

将棋のコメントはんこ5個セット

¥1,620

おたふくやこま犬、鯛など縁起のいい和風柄に、「味がいいです」「好手です」など、ちょっぴりマニアックな将棋コメントが添えられたこだわりのはんこセット。

[雑貨] 使いたい

暮らしに将棋を



(05)

こますきんぐてーぶ

¥500

「玉」「歩」「と」の3つの将棋駒がモチーフになった「こますきんぐてーぶ」。ペタペタ貼って、メッセージカードやステーションナリーをかわいくデコレーション!

応募締切
11月20日(月)

クイズに答えてプレゼントを当てよう!

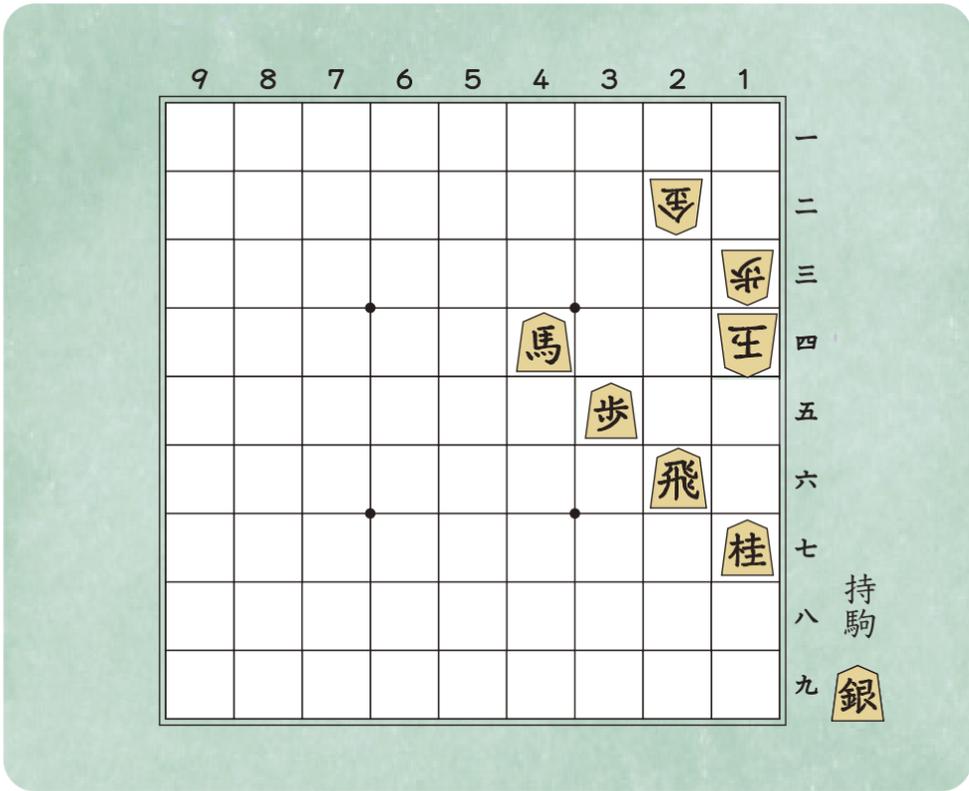
詰将棋Quiz

正解者の中から
抽選で5名様!

誰でも気軽に応募!
はじめての将棋手引帖3巻
プレゼント!



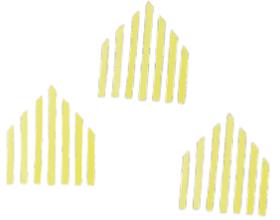
Q.手数と最終手を答えましょう。



応募方法

クイズの回答、住所、氏名、電話番号を
ご記入「詰将棋Quiz」の
解答の募集は
終了いたしました。

ヒント
まずは足場を作る
必要があります。



INFORMATION

いつつ将棋教室

いつつ将棋教室は、将棋をもっともっと気軽に楽しんでもらうために女流棋士中倉彰子がプロデュースした、子ども向けの将棋教室です。はじめて将棋に触れるお子様でも、無理なく楽しく将棋を学ぶことができます。<https://lesson.i-tsu-tsu.co.jp>

神戸元町校

神戸市中央区北長狭通4-4-18
富士信ビル5階F1
078-599-5081
10:00~17:00



東京府中校

東京都府中市宮町1-19-10
大内ビル602
042-310-9150(10月より)
10:00~17:00
(10月オープン予定)



株式会社いつつ

将棋×子育て×日本文化を軸に、女流棋士中倉彰子が代表をつとめる会社。
楽しく驚きにあふれたホンモノの日本伝統文化を、世界中の子ども達のすぐそばに届ける事業を展開。

HP:<http://www.i-tsu-tsu.co.jp> Address:〒650-0012神戸市中央区北長狭通4-4-18富士信ビル5階F1 Tell:078-599-5081

